

# 平成30年度 研究発表会

## 茨城大学教職大学院生による発表

茨城県教育研修センター  
教職教育課

☎0296-78-3212 (直通)

平成31年1月23日発行



Ibaraki  
Teacher  
Training  
Center



昨年度から、当センターの研究発表会において、茨城大学教職大学院生も研究成果を発表しています。現職派遣者の場合、1年では大学院で理論を学び、2年では各学校で実践をします。研究発表会では2年生が実践の成果を発表しました。内容は「学校運営コース」は、校内でのリーダーとして必要な考え方や知識、スキルを使った実践報告でした。「教育開発コース」が、子どもたちの実態を踏まえて、これからの社会にどのような力の育成が必要かに関する研究、「児童生徒支援コース」が、子どもの行動について研究した実践報告でした。

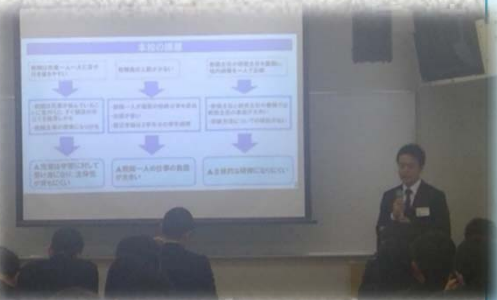
### 12/27 教育方法開発コース, 児童生徒支援コースの発表



▲講義の様子

児童生徒育成コースは、「よりよい人間関係をつくり対話的に学ぶ児童を育成する」発表内容でした。アサーショントレーニングを活用した授業づくりの手立ては参考になりました。

### 12/26 学校運営コースの発表



▲実践発表の様子

学校運営コースの発表は、校内OJT体制づくり、校内研修の構築、カリキュラム・マネジメント等でした。発表は、「どうしたら教職員が連携することができ、一人一人の資質・能力の向上するか」という内容でした。

### 受講者の感想

- 現場と大学がより強い関係性になりつつあることを感じました。
- 発表は、今現場で活躍している者(特に30代以上)にとってヒントになることなどが多くありました。
- 発表者が現任校の問題や課題を把握した上で、研究を進めていることが、直接的な実益を生み出しています。感心しました。



### 鼎談「子ども理解にもとづく『学び』と『支援』」



▲鼎談の様子 丸山広人准教授 杉本憲子准教授 加藤崇英准教授

鼎談の中で、「適応指導教室が機能しています。なぜ学校に行けないのか、その理由の背後を体験します。その子どもの背後を体験します。頭で考える、心で考える、身体で考えます。そして心の奥行きを考えることができる先生になってほしいです。」という言葉がとても印象的でした。

